

令和7年度に向けた改善方策

教育目標	◎友だちをたいせつにしよう ○じぶんから進んで学ぼう ○力を合わせてやりぬこう ○健康なからだをつくろう	目指す 学校像	児童にとって、 学んでよかったと思える学校 教職員にとって、 働いてよかったと思える学校 保護者・地域にとって、 支えてよかったと思える学校
------	---------------------------------------------------------------	------------	---------------------------------------------------------------------------------------

重点目標1	重点目標	豊かな人間性「思いやりのある子を育てる」
	考察	児童アンケート「わたしは、友達を大切にしている」の肯定的回答は94.8%、6年生では93.5%、5年生は96.5%と高い数値である。また「友達は、私の話をよく聞いてくれる」に対する肯定的回答は90.0%と非常に高く素晴らしい結果となっている。その一方「わたしは、相手に話が伝わるように、話し方を工夫している」の肯定的回答は78.5%と若干低めである。共感力を高めるための「人の話を聞く」ことはできているが、「人にうまく伝える」ことが児童にとっては難しいということがアンケートから考察できる。
	改善方策	○児童が相手意識をもって自分の思いや考えを伝えることができるような学習活動の工夫をする。
重点目標2	重点目標	豊かな知力「探究的な学びを通し、確かな学力を育む」
	考察	児童アンケート「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的回答の平均は約83%であり、昨年度より5ポイントほど減少しているが、授業者（教師）は約95%が工夫して取り組んでいると回答している。この差異については高学年の各単元のねらいや展開によって、教材の工夫が多岐にわたるため授業者にとって、難しさを実感しているところではないかと推測できる。ただし、児童の肯定的回答の平均約83%という数字は決して低いとは言えない。
	改善方策	○昨年度から算数での探究的な学びを校内で推進している。校内研究やOJT研修を通して、教員一人一人の授業力を高める取り組みを今後とも継続していく。 ○探究的な学びと並行して児童一人一人が確かな学力を身に付けられるように、ドリルを活用した反復学習を行っていくとともに、取り出しや少人数指導などの個別支援も充実させていく。
重点目標3	重点目標	健やかな身体「体力の向上と健康の保持増進」
	考察	児童アンケート及び保護者アンケート「わたし(子ども)は、早寝・早起きをしている」の児童アンケートの肯定的回答は52.8%(昨年度54.3%、一昨年度50.0%)であり、否定的回答は45.5%(昨年度40.8%、一昨年度45.8%)であった。保護者アンケートの肯定的回答が65.0%、否定的回答が34.5%であった。児童アンケートと保護者アンケートの両者に大きな差がなく「早寝・早起き」が家庭でも課題としてあるのだろうと推測される。低学年保護者の肯定的回答は73.5%、中学年は63.5%、高学年は55.4%と推移していることから、学年が上がるにつれて規則正しい生活が崩れていく傾向が見られる。
	改善方策	○9月に大学教授を招聘して、学校保健委員会を開催する。「睡眠と健全な心と体の育成」をテーマに保護者に睡眠の大切さについて啓発活動を行っていく。